

編集者のことば

計量的分析手法による都市空間の分析

都市研究のひとつの方法として、都市空間を計量的に分析することができる。最近のコンピューター能力の向上、各種のメッシュ・データの充実などにより、計量的分析の可能性は、ますます大きくなっている。本号に掲載する三編の報告は、それぞれ独立の研究であるが、共通の研究姿勢として、コンピューターによる都市空間の計量的分析の発展を追及している。

都市の実体は複雑であり、その空間を計量分析すると言っても、様々なアプローチがあり、本号の報告は、それぞれ基礎的な手法の確立を狙ったものである。

第一のグループは、杉浦、吉川の二編であり、計量地理学あるいは都市解析学の系譜に属する研究である。いずれも、計量的分析手法の確立を目的とするもので、都市を二次元空間上の分布として捉え、これを分析する数理的な理論を展開している。前者は、平面上に分布する点を分析するコンピューター・プログラムの作成を中心とするものであり、都市や施設の分布実態から、その法則性や特性を把握することに有用である。後者は、平面上のランダムな点から線分や多角形までの、最近隣距離についての分析手法の理論的研究であり、都市のなかの道路（線的施設）や公園等（面的施設）を、その周囲からの近接性の指標から評価しようとするものである。

第二グループは、島田の一編であり、国勢調査メッシュ・データ、住宅統計調査と住宅着工統計の区市別データ等の利用方法の充実と簡便化を狙いとしている。東京を中心とする地域を対象として、コンピューター・マッピングをおこない、人口、住宅等の分布実態を把握し、特定の地区ごとに地形図とメッシュ・データとの突合せも行なっている。理論的な研究ではなく、膨大な統計データの駆使により、どこまで実態の把握が可能であるかを検討している。当面は、様々なファクト・ファインディングに有効である。

計量的な都市空間分析といっても、第一グループのような抽象的、理論的アプローチと第二グループのような統計データに密着したアプローチとがある。都市空間の計量分析は、こうした二種のアプローチが相互に助け合い、両者の統合が部分的にでも推進されれば、さらに有効性を発揮するであろう。今後の課題の一つであると考えられる。

また、都市空間の捉え方として、その部分に着目した分析と都市全体の空間的構造を対象とする分析、都市の相互作用の分析などに分けることもできる。都市空間の部分だけの研究では、地価問題、住宅需給など、都市圏全体の問題は十分に研究されえないであろう。また、都市の相互作用の分析を欠いては、特定の都市の発展動向の分析は不十分なもので終わるであろう。

こうした大きな研究目的のためには、本号の報告は未だ基礎的な段階に終始している。今後の課題の巨大さを考えると、身が引き締まる思いが強い。

島田良一